

なんとなくのひろば

第81号

2025/10/30 発行



特定非営利活動法人 なんとなくのにわ 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>
Mail info@nantonakuno.net

こども サイエンスカフェ・2025 その2



日光市民活動支援センターとの協力で8月5日に始めた「こどもサイエンスカフェ」。第1回「分光器」に続き、第2回はなんにわ会員の古郡さんを講師に「折り紙でつくる20面体+」を9月21日(日)に実施しました(右上写真)。

一枚の紙から山折りと谷折りの組み合わせでサッカーボールのような立体を作る。紙には適当な硬さと厚みが必要です。紙の選定から試作、折線の印刷まで古郡さんはたいへんお世話になりました。印刷の指示どおり、しっかりと折り目を入れ、予定時間1時間半で完成できた子もいましたが、お昼になってしまい、多面体への組み上げ方を聞いて持ち帰った子もいました。私も完成に至らず残念。平面から立体が立ち上がる折り紙の面白さに熱中した時間でした。完成した折り紙の一部は古郡さんの作品とともに10月12日(日)の「日光ボランティア・市民活動フェスタ2025」で展示しました。(下の写真・なんにわ展示と日光仮面)



目 次

こどもサイエンスカフェ・2	1
第三期県立高等学校再編 計画への要望書	2
活動報告	3
福祉や医療との連携体制構築の 協議会に参加	3
こんな本はいかが・71	4

居場所のひとこま

こどもカフェで予定の「ふしぎな箱」作成キットを居場所で準備しています。イベントに先立ち、居場所の小学生に組み立てもらいました。まず箱の内側を黒マジックで塗り、両端の2面に鉛筆を通すための丸穴を開けます。偏光板を張り付けて出来上がり。写真は組み立て前の箱と偏光板です。



以前の「なんにわサイエンスカフェ」では小中学校にチラシを持参して配布をお願いし、同時に市教委にある各学校行きのポストにもチラシを置くというやりかたで広報していました。今年からは『市内小中学校を通してのイベント等のチラシ配布は、個別配布からWEBチラシ掲載に移行』となり、[小中学校へのチラシ配布 - 日光市]のページに掲載されることになりました。日光市LINE公式アカウントに登録してある方にはページの更新があると通知メッセージが届く仕組みになっていることです。WEB掲載申込や閲覧の方法、日光市LINEアカウントの登録については、大桑小学校のHPに詳しい説明が載っています。

「折り紙」の告知では「WEBチラシ」が効果を上げたようで、10組近い申し込みがありました。ところが同様にチラシ掲載を行った「川むしたんけん隊」(9月27日)では、残念ながら申込者なし。大人だけの「たんけん隊」になってしましました。第3回目として準備している「偏光板でつくるふしぎな箱」も3連休中の11月2日(日)という実施日設定が良くなかったのか、今のところ申し込みがなく、下野新聞にイベント告知をお願いしたところです。どうやら「WEBチラシに出したので安心」とはならないようで、内容と時期によって広報のやり方を工夫する必要がありそうです。

第4回「鉱物標本セットをつくる(仮)」を12月に向けて準備中です。会場は日光市民活動支援センター、時間は1時間くらいというスタイルで、来年も続けたいと思います。興味のある方、内容への提案がありましたら、ぜひお知らせいただければありがとうございます。(手塚)



第三期県立高等学校再編計画への要望書

昨年はじめ、「第三期県立高等学校再編計画」(高校再編)が県教委より発表され、新聞にも取り上げられました。栃木県の「県立高校再編のページ」には概要や多くの資料が、過去の再編計画も含めて掲載されています。通信77号にその概要についてまとめ、通信78号では「居場所」に集う子どもたちの進路選択のひとつとしての、定時制・通信制について日光周辺の情報も含めその歴史をたどり、通信79号ではランシエールという哲学者の「人間の能力は平等だと考える意識」から導かれる「知的能力に序列はない」という無謀とも思える考察から、はたして「新しい学びの場」は生まれるのだろうかとぼんやり考えたりもしました。

今回、「子どもの居場所」利用者、保護者の方々の意見、子どもたちの中卒業後の動きや感想をベースに、栃木県教育委員会への「なんとなくのにわ」としての要望書をまとめてみました。10月17日、県教委宛に提出した要望書の全文を以下に掲載します。
(手塚)

栃木県教育委員会 教育長 中村千裕 様

日頃より、子どもたちの健全育成についてご尽力いただき、ありがとうございます。

「なんとなくのにわ」は「日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある支援と学びの場を作り出すこと」を目的として2004年より活動しているNPOです。不登校の子どもたちを対象とした日光市委託による「子どもの居場所」運営、および、障がい者や家族の相談に応じ、情報提供・助言、計画作成やモニタリングを行う指定特定相談支援事業をふたつの柱に活動しています。

昨年はじめ「第三期県立高等学校再編計画」が発表され、日光市にある3高校が総合学科高(定員240名)に統合されることになりました。同時期、宇都宮市にある通信制・定時制(定通制)はフレックス・ハイスクール(宇都宮清陵高校)に再編されます。定時制・通信制は仕事や生活を続けながら高卒資格を取れる魅力的な制度であり、とくにJR鶴田駅近くの宇高通信制は日光や鹿沼からスクーリングに通いやすい位置にある身近な存在でした。「子どもの居場所」に集まる子どもたちの進路を考えるなかで、家計への負担の少ない県立通信制や定時制も視野に入れよう見学会を行ったこともあります。しかし、夜遅くの帰宅となる定時制、自学自習および週1回のスクーリングが必要な通信制への進学は、学校になじめない多くの子どもたちにとって高いハードルとなり、宇都宮市や鹿沼市の広域通信制への進学が現実的な選択肢となっています。自分のペースで自由に学ぶことができる学びの場をすべて民間に預けてしまってよいのか、子どもたちの学ぶ権利を保障する砦としての公教育の存在が問われているように思います。

憲法26条に掲げられている「教育を受ける権利の保障」という基本理念の実質化をめざし、以下の2項目を要望します。

1 今市高校に通信制課程を： 高校再編計画書には「通信制高校については、スクーリング等に通学しやすい環境となるよう、学校の配置を見直す。また、協力校の設置などについて研究を進める」と書かれています。この実現のため、今回再編の対象となる新・今市高校に通信制課程新設を要望します。宇都宮清陵高や学悠館高の授業の一部を補完する分校(協力校)機能を加えるという方向もご検討ください。

2 地域の民間団体やボランティアが支援する新たな学びの場を： すべての子どもたちが、教育を受ける権利を持つという理念をふまえ、高校生に限定せず、もういちど学びたいという市民も対象とした今市高校付属施設の併設を要望します。合同する3つの高校が持つ資源を生かし、自治体が知恵を出し合い、今までの「学校」というスタイルにこだわらない「多様な学び・自学自習の場」、自由に出入りでき、ボランティアや高校教員が応えてくれる「学びの相談所」の開設をご検討ください。自分のペースで学びたい子どもたち、自主的な学びや研究、技術、創作に挑戦したいと考える子どもたちと、社会人や教員との交流から生まれる好奇心が推進力となる学びの場から、新たな学校の在り方が見えてくるのではないかと考えます。

不登校の増加が注目されるいっぽう、「学校内に包摶されながらも実質的に排除される子どもの問題」^(注1)は見逃されがちです。学校へのいきづらさを抱えながら義務教育を過ごし、進学した子どもたちにとって、通学しやすい通信制高校、そこに併設され開かれた学びの場は、それまでの学校で得られなかった学びの意義を実感する入口となるでしょう。行政と民間が共同で運営する「新たな学びの場」が、日々の成績評価や絶え間ない能力競争によって硬直してしまった日本の学校のスタイルを変えていくのではないかとの考え方から、この要望書を作成しました。ご検討をよろしくお願ひいたします。

(注1) 日本学術会議・提言 「すべての人に無償の普通教育を多様な市民の教育システムへの包摶に向けて」 p.15 2020年8月
<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/kohyo-24-i295-2-abstract.html>

子育て・親育ちの茶話会

場所： 子どもの居場所 (日光市今市316-4)

日時：毎月 第2月曜日 (午前10時～12時)

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300円 (お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。

(Tel : 090-3227-7079)

7月18日（金）通信「なんとなくのひろば」第80号 発行
 7月23日（水）教育支援センターと共同ミーティング（居場所にて）
 7月24日（木）宇都宮法務局登記完了
 8月 4日（月）雇用保険手続き（労働基準監督署、公共職業安定所）
 8月 5日（火）こどもサイエンスカフェ（1）「分光器」
 8月 9日（土）～17日（日）居場所夏休み
 8月24日（日）ベリー会（学習講演会）
 9月 2日（火）理事会（第127回）
 9月 8日（月）茶話会（第147回）
 9月21日（日）こどもサイエンスカフェ（2）「折り紙でつくる20面体+」
 9月27日（土）川むしたんけん隊（長畠・西沢川）
 9月28日（日）ベリー会（グループ相談会）
 10月 7日（火）第2回福祉や医療との連携体制構築に関する協議会
 10月12日（日）日光ボランティア・市民活動フェスタ2025（大沢公民館）
 10月17日（金）第三期県立高等学校再編計画への要望書提出
 10月26日（日）ベリー会（学習講演会）
 10月30日（木）通信「なんとなくのひろば」第81号 発行

さくらそう関連 連絡会など

2025年度 日光市相談支援専門員連絡会

カット:会員さん作成
消しゴムスタンプ



瀬高市長@日光ボランティア・市民活動フェスタ2025 なんにわ展示

7月23日（水）放課後等デイ・B型事業所説明会

8月27日（水）すかいべーカリーランチ・日光市相談支援の今後について
 9月24日（水）訪問看護事業所・訪問介護事業所紹介

10月22日（水）グローバルキッズ見学（欠席）

2025年度 日光市障がい者自立支援協議会

8月14日（木）第5回ケース・事例検討会議
 9月11日（木）第6回ケース・事例検討会議（欠席）

10月 9日（木）第7回ケース・事例検討会議

2025年度 県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会

10月31日（金）ペアレントプログラム講習



テーブルに展示した折り紙・希望者に配布しました

2025年度 第2回 福祉や医療との連携体制構築に 関する協議会 10月7日(火)

「不登校児童生徒の支援をより一層充実するために、地域においてどのような支援機関や居場所があり、どのように連携することができるのか、それぞれの強みについて情報交換し、相互理解を図ることを目的とした協議会が総合教育センターで開かれました。

教育事務所(いじめ・不登校対策チーム、SSW)、市町教委のこども・若者支援、障害福祉、母子保健、児童福祉の各担当者、県教委からは学校安全、義務教育、高校教育、特別支援教育、生涯学習、総合教育センター、および、県民協働推進課、保健福祉課、障害福祉課、こども政策課、健康福祉センター、教育政策課各担当者、フリースクール等民間支援団体など多様な関係者が集まりました。

あいさつと日程説明のあと、「不登校に関する調査」および「栃木県不登校総合対策の方向性」について県教委事務局からの講話がありました。その内容については、下欄

[資料URL]をご覧ください。児童生徒、保護者および教員への統計調査や分析がこのようにネット上で公開されることは今後の議論にとって、とても良いことだと思います。

続いて、「不登校児童生徒や保護者を支える体制の構築」～福祉や医療・民間の強みを生かした支援とは～という演題の講演がありました。土屋さんは日本社会事業大学専門職大学院などで講師を勤められ、今年度は宇都宮大学のSSW講座も非常勤講師として担当されている方です。今回の協議会の意義、そこに関わるSW/SSWの役割、連携・協働のあり方と進め方について、さまざまな法規や経験をふまえてのお話でした。

講演終了後、地域ごとのグループに分かれ、「各機関や民間支援団体の取組について」というテーマで情報交換を行いました。県教委(高校教育課、上都賀地区SSW)、日光市および鹿沼市の市教委の担当の方に加え、各市の福祉担当の方が参加しました。NPO関連は鹿沼CCVの福田さんと私。なんとなくのにわからは、「子どもの居場所」、「さくらそう」が日光地区の他団体と協力して活動していることを報告しました。
 (手塚)

資料URL

不登校に関する調査 <https://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/documents/siryou1-1.pdf>

栃木県不登校総合対策の方向性 <https://www.pref.tochigi.lg.jp/m01/documents/houkousei.pdf>

なんなくのひろば

〒321-1261 栃木県日光市今市378
電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net
ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



こんな本はいかが？ その 71 鈴木のりたけさんの絵本

今回は、絵本作家 鈴木のりたけさんの絵本を紹介します。
「大ピンチずかん」シリーズは、ベストセラーになっています。

◎「大ピンチずかん」作・鈴木のりたけ 2022年 小学館

このずかんは、世の中の様々な大ピンチを、レベルの大きさとピンチのなりやすさで紹介しています。大人でも「あるある！」と、思わず笑ってしまいます。

◎「大ピンチずかん 2」作・鈴木のりたけ 2023年 小学館

このずかんは、世の中の様々な大ピンチを、レベルの大きさとその時の気持ちを分析した大ピンチグラフで紹介しています。気持ちの分析も素晴らしい！

◎「大ピンチずかん 3」作・鈴木のりたけ 2025年 小学館

このずかんは、世の中の様々な大ピンチを、レベルの大きさとうっかりメーターで紹介しています。

朝日新聞(9月1日)の不登校関連の#with you～きみとともに～の記事で鈴木のりたけさんの3人のお子さんのことが語られていました。現在は高校2年の長女、中学2年の長男、小学6年の次男ですが、3人とも小学生から不登校を経験したそうです。長女の最初の不登校では、親として相当悩まれたようです。元気がなくなっていた長女がフリースクールという選択肢を選んでから、笑うようになった、と。

「僕は絵本を通じて、世の中は面白いよ、と伝えたい。面白い世の中と向き合いたい、という気持ちを持つためには、やりたいことをやれる環境や、興味のあることに費やせる時間、見守る大人が必要だと思うんです。好きなことがわからない時は待つ」と書かれていました。

鈴木さんは、お子さんの不登校を通して「見守る人と時間」が必要だという気持ちを深くしたのだろうと思います。絵本というツールは子どもにも大人にも心の豊かさを気づかさせてくれるものだと思います。

現在、鈴木のりたけ「大ピンチ展！プラス」という遊べる展示会も開催されています。東京・立川市「PLAY! MUSEUM」で10月8日から12月7日まで。

(白井)

なんなくのへや

2025年は「量子力学誕生100周年」、ユネスコの「国際量子科学技術年」です。天体の動きを観測し数学的に解明しようとする試みはガリレオガリレイに始まったと言われます。ガリレオの考えは多くの学者に引き継がれて成功をおさめ、物理学という強力な学問分野が花開きました■ガリレオから数世紀が経ち、いったん完成したかに思えた物理学の方法でも理解が難しい現象が19世紀末から20世紀にかけて次々とみつかりました。溶鉱炉の温度と溶けた鉄の色の関係も不思議のひとつでした。プランクというドイツの教授が、光はエネルギーを「かたまり」で運び、その量は連続ではなく「とびとび」の値になるという奇妙な仮説を唱えました■同じ頃、物質を作っている基本粒子と思われていた原子は、さらに小さな粒子の集まりかもしれないという実験結果も出てきました。原子の大きさは100億分の1メートルくらい。原子がプラスとマイナスの電気を帯びた、より小さな粒子の集まりでできているとしたら、互いに引き合い、あっという間に消滅してしまうでしょう。なぜ原子は安定に存在できるのか。微小な空間では物理学の原理そのものが成り立たないのではという悲観論もあるなか、多くの科学者が極微世界の新しい物理学を模索しました■そんな中、ドイツの物理学者ハイゼンベルクが花粉症から逃れるため滞在していたヘルゴラントという離れ小島で、ある数学的着想を得て論文をまとめました。その1925年が「量子力学」誕生の年と言われます。とはいっても量子力学はプランクのエネルギー仮説に始まる1900年から1950年頃までの多くの実験データの蓄積と理論的考察によってできた枠組みです。「観測の問題」や「量子もつれ」など今も議論が続く課題も残っています。日常的なイメージで語ることが難しく、数学の助けでやっと「量子」理解の窓口に立った1925年。「量子にまつわる、ひとつのエピソードが生まれた日」くらいに考えておくのがよいのかもしれません。(T)

私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

会員について

正会員: 48

賛助会員: 13

団体会員: 3

入会金なし

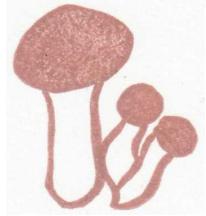
年会費(一口)

正会員 3,000円

賛助会員

個人 5,000円

団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。応援をよろしくお願いします。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営に直接かかわることができます。積極的な参加をお願いします。